



『むべなるかな』

《発行》令和7年8月／大島・奥津嶋神社氏子総代

大島・奥津嶋神社の古文書～中世から伝わる地域の宝～

毎年8月、当神社では古文書の「虫干し」を行っています。現在、神社に残されているのは「大般若心経」およそ600巻。国指定重要文化財の古文書は、滋賀大学で大切に保管されています。これらは鎌倉時代から江戸時代まで、約600年にわたって記された222点もの文書です。今回は、その中からいくつかをご紹介します。

◆残されて貴重な記録（抜粹）

- ・最古の記録：仁治2年（1241年）の訴状
　　村人が山門（比叡山延暦寺）に役人の不正を訴えた訴状。
- ・村の掟：弘長2年（1261年）　　「奥嶋百姓等庄隠規文」
　　村の共同体（惣村）の掟を記した最古級の文書。悪口や中傷を禁じ、破った場合は「追放」という厳しい罰を科す内容で、庄民代表が連署して決められました。
- 永仁6年（1298年）　　神社の供え物についての裁判記録。
- ・新しい村人の宮座参加：応安元年（1368年）
　　新しく加わった村人が宮座（神事を行う組）に参加した記録。
　　身分や権威にとらわれないフラットな関係性が垣間見えます。
- ・徳政令の木札：嘉吉元年（1441年）
　　全国的に珍しい、借金帳消しを定めた木札。

◆地域の宝として

古文書には、漁業をめぐる争い、土地や物の寄進・譲渡・売買、村の掟や神事の取り決めなど、村の暮らしや変化を物語る記録が数多く残されています。中世の村の成り立ちや人々の暮らしを知るうえで大変価値が高く、地域の長い歴史を今に伝える宝物です。

◆現代につなぐ

750年以上前、この地の人々は村の安寧を祈り、自ら話し合い、決めたことを皆で守るという自治の精神を育みました。私たちは、その誇るべき歴史を今に受け継いでいます。

参照：文化庁文化財データベース 大島・奥津嶋神社文書（二百二十二通）
滋賀大学経済学部付属資料館収蔵資料 大島神社・奥津嶋神社文書
昭和62年6月国の重要文化財指定

9月の予定（行事案内）

- ・9月4日（木曜日）　　百々神社　月例祭　午前10時より祈祷受付開始
- ・9月28日（日曜日）　　本社・百々神社・若宮神社の清掃。8時～
- ・百々神社祈祷旗奉納のご案内　中旬より、随時ご案内にお伺いします。
　　両町の皆さんにはご理解およびご協力をお願い致します。

